

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社メディア・ファイブ

【ツール名】

ラーニングスケルトンAI

【ツールの機能分類】

学習支援・授業支援 (LMS)

学びを深め成長していくこと、将来の自分をつくること。



2023年3月

ラーニングスケルトンAIの特徴

楽しく学ぶ Learning

ドリルのコンテンツが豊富なので低学力層のお子さんでも楽しく学習することができます。

※コンテンツは新学習指導要領に対応しています

豊富なコンテンツ
楽しく学力を伸ばす

ドリル学習
ゲーム学習

思考を育てる Skeleton

コネクトシートを使って、自分の考えをまとめ、チーム機能で意見を交換することができます。

考えをまとめる
他の人の考えも確認

コネクトシート
チーム機能

AIがサポート AI

より効率よく学習するためにAIが学習の進捗状況に合わせて計画を立てます。AI探求は調べ学習に最適！コネクトシートやドリルの内容に合わせてWEBサイトを表示してくれます。

学習をナビゲート
関連用語を表示

AI学習計画
AI探求

すぐに授業で活用できる！

新学習指導要領（新教書）完全対応

教材テンプレート
教科書に対応した教材テンプレートで0秒で授業の準備ができます！

使用したいテンプレートを選択

問いかけテンプレート
教科書に対応した問いかけテンプレートで5分で思い通りの教材を作れます！

使用したいテンプレートを選択

3つの特徴

個に応じた指導！

目指せ遅滞者ゼロ！ゲーム教材・AI 独習

探究学習を AI が支援！

主体的・対話的・深い学びを AI がサポート

AI 共究とはシートに描いた内容を、より深く調べるために、必要な項目を AI が判断して表示させます！小学生から社会につながる授業・学習ができます！

関連用語を表示
インターネットですぐに検索できる

遅滞者対策は学校現場で最も深刻な問題です

学習遅滞者発生率

学年	82年	02年
2年	~5%	~5%
3年	~10%	~10%
4年	~15%	~15%
5年	~20%	~20%
6年	~25%	~25%

小学6年で20%の児童が算数についていけません。現場の先生の8割はクラスの学力差を悩んでいます！

レベルアップ問題
レベルダウン問題
成績によって最適な問題を出題。

学習をナビゲート
AI 独習でスケジュール管理

○ツール利用料

<中学校向け基本パッケージ> 1年間 4,640,000円（税抜）

- 内訳・システム利用料
- ・サポート費用（導入時研修、導入後サポート、ツール保守等）
- ・コンテンツ使用料（主要科目及び英検、等 計13科目）
- ・校内アカウント数フリー

<高等学校向け基本パッケージ> 1年間 8,288,000円（税抜）

- 内訳・システム利用料
- ・サポート費用（導入時研修、導入後サポート、ツール保守等）
- ・コンテンツ使用料（主要科目及び英検、TOEIC、情報系コンテンツ、等 計30科目）
- ・校内アカウント数フリー

■ 学校等教育機関の抱える課題

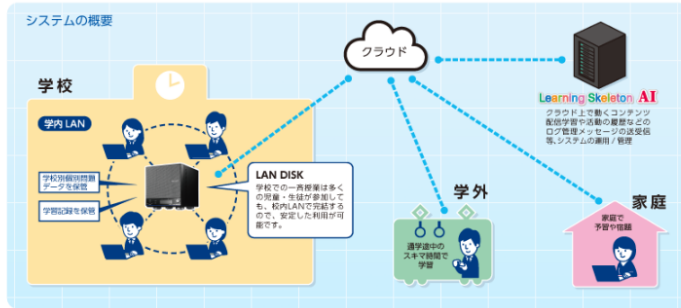
LSAIで解決できること：ネット環境

【問題点】 ネットワーク回線が遅い

- ・学校のネットワーク回線が遅い
- ・全校生徒が一斉に使うと繋がらない。
- ・国の考えとして、まだ明確な施策が出されていない。

LSAIなら

クラウドとの学校内LANを活用することで全校で一斉にICTを活用してもスピーディに動くことが可能。（万が一遅くなれば、LAN DISKを増加することで解決）



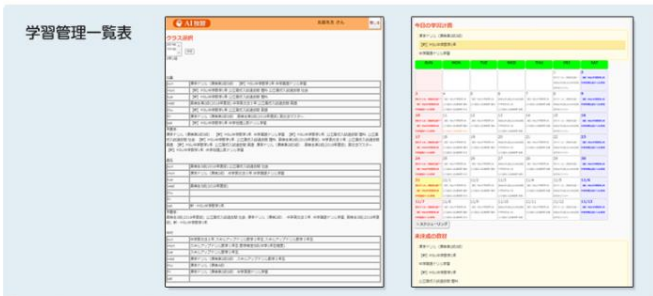
LSAIで解決できること：AIドリル

【問題点】 AIドリルの導入について

- ・AIドリルは月額料金が高額。
- ・個別最適化に対応できるAIドリルの導入をしたい。

LSAIなら

- ・AIを活用した学習スケジュール管理や健康管理機能が搭載！
- ・他社と比べて月額料金が安い！



LSAIで解決できること：家庭学習

【問題点】 家庭での学習方法

- ・家庭学習で使えるシステムがあると良い。
- ・家庭でのネット環境が整っていない。
- ・英語のアプリが欲しい。
- ・全学年の勉強できるアプリが欲しい。

LSAIなら

- ・ネット環境が整っていないでも学校と同じように学習ができます。（media5 Premier6にて対応）
- ・コンテンツも豊富なので自由に選択して学習することが可能。



LSAIで解決できること：不登校児・入院中の児童生徒へのサポート

【問題点】 学校に通えない子へのサポート体制

- ・学びの保障が得られない。
- ・登校できなくても他の子と同じように学習してほしい。

LSAIなら

- ・コンテンツも豊富なので自由に選択して学習することが可能。
- ・お子様の学力やベースに合わせて学習をすることはできます。



■ 学校等教育機関の抱える課題

LSAIで解決できること：先生方へのサポート

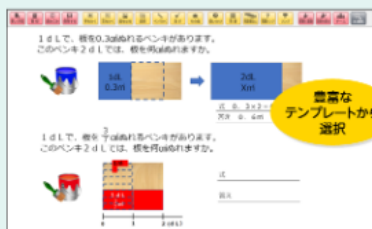
【問題点】ICT活用における教員間の温度差

- ・教員によってICTに対する温度差がある。
- ・全体的な活用がなかなか進まない。
- ・一部の教員に負担が集中している。

LSAIなら

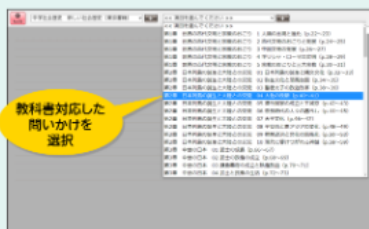
- ・授業ですぐに活用できるコンテンツが豊富。
- ・操作がしやすい。
- ・ドリルも搭載されている。
- ・導入後のサポート体制あり。

すぐに授業で活用できる教材テンプレート



教科ごとに授業で活用できる授業シートを搭載。デジタル教材を初めて作成する先生ですぐに授業で使えるようになります。

教科書対応の問いかけテンプレート



教科書に対応した問いかけがあるので、すぐに授業に活用できます。

教材作成が簡単にできる



授業シートに、文字の入力、画像の貼り付け、動画の貼り付け、URLの挿入が簡単にできます。

LSAIができること：教師と子供がつながる

「朝ノート」で健康観察 【メンタル健康管理】



体温や体調、気分などの健康管理をラーニングスケルトンAIで行うことができます。

自分だけのスライドと共有するスライドの使い分け 【思考支援シート】



ラーニングスケルトンAIでは「思考支援シート」を使用し自分の意見をまとめたり、作成したシートを共有することができます。

家庭学習カードのオンライン化1 【AI学習計画】



生徒の学習の様子を教員が把握することができます。学習計画を簡単に立てることができ、実行できなかった場合はAIがリスケジュールを行います。

家庭学習カードのオンライン化2 【学習履歴】



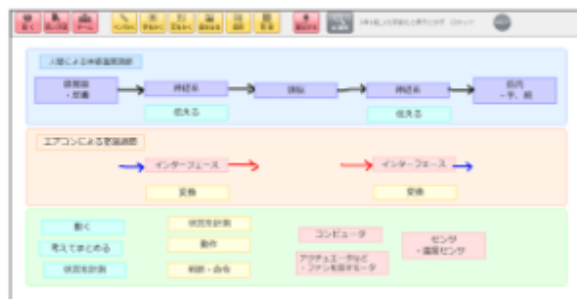
生徒の学習の様子を教員が把握することができます。

■ 学校等教育機関の抱える課題

LSAIができること：子ども同士がつながる

導入でひな形学習カードの配信

【思考支援シート】



教員が作成した思考支援シートを児童生徒に配布し、そのシートを見ながら学習することができます

コメント機能を活用した学び合いの活性化

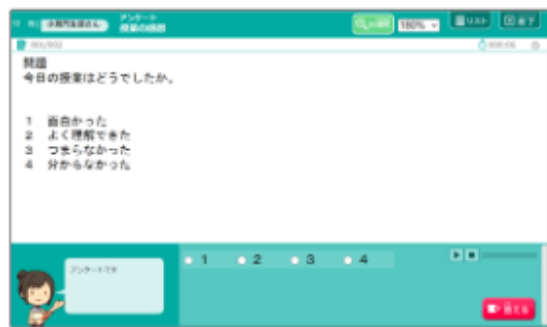
【チーム機能】



チーム機能を使って学級や班ごとで議論することができます。

振り返り活動DX

【アンケート機能】



アンケートを機能を使用すれば学習の振り返りを行うことができます。

※教員が生徒のアンケートにコメントできる機能を開発中

付箋操作のオンライン化

【LSAIカード機能】



※LSAIカード機能（仮）として現在開発中

LSAIができること：学校と家庭がつながる

保護者へのお手紙・個人懇談日程希望調査

【メッセージ送受信機能】



- ・教員がラーニングスケルトンAI にメッセージを入力すると保護者のスマホにお知らせが届きます。
- ・ラーニングスケルトンAI上でもメッセージを送ることができます

■ 学校等教育機関の抱える課題



こんなことで困っていませんか？

- 授業でICT学習が導入されたが、上手く使えない。
- チャットやメール、タブレット学習、たくさんアプリやソフトがあって使いこなせない。
- 学習ソフトの操作が難しく使えない。
- PC操作が苦手、文字を入力するのが苦手

複数のシステムを使わなくても、ラーニングスケルトンAIなら様々な機能が一つにまとまり、使いやすい！

チャット機能

授業中にわからないことがあったら、チャット機能で気軽に質問することができます。

教科書に沿った学習

授業で使用する教材は、教科書に対応した「問いかけテンプレート」を使用することで、簡単に準備することができます。

ICTを活用した学習

アクティブラーニングを中心とするこのシステムは、双方向通信授業にぴったり！先生の動きをシミュレーションすることで双方向授業がフル稼働！

ゲーム学習教材

難解の苦手な児童・生徒にはゲーム学習で、ゲームの楽しさを学びます。ゲーム学習から徐々に、繰り返し学習で学力を伸ばします。

1. 児童生徒の個に応じた学習

児童・生徒の能力をAIが判断！一人一人に合った学習内容を提供することができます。苦手な分野をAIが判定し、学習の定着を図ります。

● AI個別復習問題作成



AIが学習状況やミスの仕方などを分析して、各児童・生徒に合った復習問題をそれぞれ作成します。

● AI難易度自動判定



児童・生徒の理解度に応じて出題問題の難易度が自動で変化します。成績が良いと難易度が上がり、成績が悪いと難易度が下がっていきます。さらに難易度の低い問題を間違えると、解説ムービーで基礎から学ぶことができます。



こんなことで困っていませんか？

- 勉強についていけない、遅れてしまう。
- 読み、書きが苦手。
- 算数がなかなか覚えられない。
- 計算が苦手で複雑な計算が難しい。
- 授業に集中できない。
- 長時間学習するのが苦手。
- すぐに飽きてしまう。
- 学習習慣がなかなか身につかない。
- 体調不良等で欠席している。
- 不登校の為、家庭学習がメインである。
- 長期間、学校を欠席していたので、授業についていけない心配。

ラーニングスケルトンAIはこのようなお子さんでも使いやすい教材です

1. 勉強が苦手な お子さんには

児童・生徒の学力に応じてAIが判断、一人一人の能力に合わせて無理なく学習を進めることができます。また教科書に沿った問題を提供することができます。

● AI個別復習問題作成



AIが学習状況やミスの仕方などを分析して、各児童・生徒に合った復習問題をそれぞれ作成します。

● AI難易度自動判定



児童・生徒の理解度に応じて出題問題の難易度が自動で変化します。成績が良いと難易度が上がり、成績が悪いと難易度が下がっていきます。さらに難易度の低い問題を間違えると、解説ムービーで基礎から学ぶことができます。

● 自分のペースでドリル学習



全ての学年の学習がドリルに含まれているので、苦手な教科は前の学年に戻って学習することができます。また繰り返し学習することもできます。

● 簡単操作で学習



数字を入力することができるので、簡単に問題を解くことができます。



- ラーニングスケルトンAIは教科書対応をしています。
- 教材の改編、作成が簡単にできます。授業をしながらその場で行うこともできます。
- アクティブラーニングができます。
- 遅滞者対策に最適です。
- その都度必要な操作をしていくことで、システムの理解度が高まるため、徐々に使いこなせていくようになります。
- 授業時、キャッシュボックス (SSD-NAS) を利用することで、アクセス集中によるフリーズや速度減が発生せず、全校生徒が一斉に活用しても速いスピードで操作できストレスがありません。

すぐに授業で活用できる！

新学習指導要領 (新教書) 完全対応

教材テンプレート
教科書に対応した教材テンプレートで事前の準備ができます！

問いかけテンプレート
教科書に対応した問いかけテンプレートで事前の準備ができます！

探究学習をAIが支援！

主体的・対話的・深い学びをAIがサポート

AI 探究とはスタートに書いた内容を、より深く調べられるために、必要な項目をAIが判断して表示させます！小学生から社会につながる探究・学習ができます！

3つの特徴

個に応じた指導！

目指せ遅滞者ゼロ！ゲーム教材・AI 検習

遅滞者対策は学校現場でも深刻な課題です。小学 6 年で 20% の児童が算数についていけません。遅滞の発生は多数のクラスの学力差を拡大しています！

成績によって最適な問題を提出。AI 学習でスケジュール管理

インタラクティブな遠隔授業の実現

遠隔授業でも、クラスで行っている授業と同質な授業ができます。課題用配布シートを使用し、調べたりグループで比較することができます。

メッセージ機能を使って、学校や先生に質問したい事や話したい事はすぐに連絡することもできます。



ラーニングスケルトンAIでは、アクティブラーニングや遠隔授業、ドリル学習に活用可能な、AI活用型ドリル、AI活用学習スケジュール、コネクシートなどの機能を使うことができます。

その中でも、AIによる探究学習機能「AI探究」は、シート上の単語をAIが拾って自動的に検索できるページや関連動画のページにリンクされるので、調べ学習に最適です。この「AI探究」機能は



コネクシートをはじめ、ドリル上にも搭載されており、単に問題を解くだけではなく、理解を深める学習に役立っています。コネクシートは、先生の板書シートのイメージで、そこに生徒が検索や調べによって得た答えや考えを文字や図、写真などで表現していきます。マインドマップのような活用も可能です。

■ 補助事業において実施したサポート内容

○教員及び生徒の個別ID、アカウントを設定し登録、セッティング

(※通常の導入時はID・アカウントの設定、登録、セッティングは当方からの説明により導入校様で行っていただきますが、当補助事業におきましては当方にて実施をいたしました)

○管理者用操作マニュアルの作成

○教員、生徒用操作マニュアルの作成

○担当者向け特別マニュアルの作成

○サポート体制についてのご案内

サポート窓口 support@media-5.co.jp

にて受付、及び担当者連絡先を伝達

○東京都教育委員会

東京都立三鷹中等教育学校様

1～6年次の生徒及び教員向けに

に中学版、高校版を導入いたしました

「AI探究」機能を調べ学習で活用することにより、検索を効率よく実施でき、探究学習が充実することによって、生徒が自主的に学びに取り組む姿勢がみられるようになった、とのご意見をいただいております。調べた結果を写真や表、あるいはURLで画面に貼り付け、タブレットを使用すれば、いつでも、どこからでも使え、手軽に遊ぶ感覚で学習ができる、生活に密着した使い方ができているのは大きな活用効果であるといえます。また、AI活用型ドリルについては、前回不正解の問題だけ、ケアレスミスしたものだけ、などの選択出題が可能のため、効率よく学力アップが図れています。



■ EdTechツールを活用した児童・生徒・教員のコメント感想等

●生徒

- ・ いろいろな科目のドリルがあって学習に便利
- ・ AI探究を使うと検索が速くできて、調べる手間が省ける 他

●教員

- ・ WordやPowerPointで作成したものをコネクシートに貼り付けできるのがよい
- ・ コネクシートに動画の貼り付けができるので授業の流れがスムーズになった
- ・ コネクシートをまとめてキーワードをCSVファイルに抽出し、生徒の理解度を可視化する、
という活用方法を採用しており役立っている（外部のテキストマイニングツールも使用）
- ・ 生徒の学習状況の把握ができる
- ・ オリジナルドリルの作成やプリントができるのがよい
- ・ 機能が多く、使いこなせていない 他

教員によってICTスキルに差があり、スキルの高い教員はボタンを触ったり画面を展開していきながら主体的にできることを探して教員自身が活用しやすいパターンを形成することができていますが、苦手な教員については、生徒の自主学習時のドリルの使用のみに留まっている、もしくは使用していない、という状況が生じております。コネクシートやオリジナルドリルは、教員間でのデータ（ファイル）共有が可能で、活用次第で負担軽減に繋がる機能ですが、先生をラクにする、という目的の達成には未だほど遠いのが実情といったところです。

ラーニングスケルトンAIは多機能であり、教員の担当科目やICTスキル、また、導入校の状況によって活用法が異なるため、今後は、ICTスキル別、科目別などのグループごとの研修開催、導入校の状況の事前ヒアリングなど、教員が当ツールを安心して有効活用いただける環境を構築していくことを改善策と捉えております。

株式会社メディア・ファイブ

本 社

〒330-0063

埼玉県さいたま市浦和区岸町5丁目14番9号

TEL : 048-827-3535 / 048-711-2624

FAX : 048-827-3555

代表取締役 北島 謙太郎

略 歴

1960年埼玉県生まれ、埼玉大学教育学部卒。コナミを経て日本総研 研究事業本部所属研究員として勤務。その間、IT技術、マルチメディア、インターネット、医療システム、学校経営、ナレッジマネジメント等多数のプロジェクトを手がける。1999年「エデュカートリッジ・データ・システム」を考案・開発（米国特許、国内特許取得）。著書に、『明日の事業開発』（共著）、『究極の経営』がある。

設 立 1993年11月 （創業 1992年6月）

資本金 97,000,000円

業務内容

コンピュータソフトウェアの開発・販売、書籍の出版
デザイン・経営コンサルティング・広告代理業・ネットワークサービス

担当窓口 企画事業部 渥美弥栄子

atsumi@media-5.co.jp